

## 2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。土づくりや有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施用例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、前作の残肥等によって必要な施肥量が異なりますので、各圃場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

「ちばエコ農産物」栽培基準では、堆肥の目安量を記載しています。堆肥を施用する場合は、堆肥に由来する肥料成分を考慮し、作物が必要とする成分を上回らないよう気をつけましょう。堆肥の肥料成分については、主要農作物等施肥基準（平成21年3月千葉県）を参考にしてください。

表3 みずな・秋どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥と肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふん稲わら堆肥				1,000			
基肥	マイルドユーキ030	10(4.7)	13	10	100	10(4.7)	13	10
	BMようりん	0	20	0	40	0	8	0
	苦土石灰				80			
総施用量						10(4.7)	21	10

注) ( ) 内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

「ちばエコ農産物」栽培基準、主要農作物等施肥基準は千葉県ホームページから見ることができます。

県ホームページ ホーム > しごと・産業 > 農林水産業 > 農業 > 農業生産

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shigoto-sangyou/nourinsuisan/nougyou/seisan/index.html>

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料施用例は、平成24年度現地実証試験時点のものです。実際の農業使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。  
なお、栽培基準は平成25年1月改訂後のものを記載しています。

●著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター  
●編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課  
●発行年月日 平成26年1月  
■内容についての問い合わせ先  
千葉県農林総合研究センター TEL.043(291)9987

CHIBAちば

「ちばエコ農産物」栽培のために！  
(品目別栽培カード 39)



# みずな・秋どり栽培

千葉県農林水産部

## 1 栽培基準

みずなの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、収穫時期ごとに、春どり（3～5月）栽培、夏どり（6～9月）栽培、秋どり（10～11月）栽培、冬どり（12～2月）栽培で設けられています。

秋どり栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素成分量）は、表1のとおりです。



▲みずなの秋どり栽培

表1 みずな・秋どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成25年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥 <sup>注</sup>
秋どり	2	5	800	300	200	1,000

注) 土づくり的堆肥とは、土づくり効果の高い有機質資材（炭素率30以上又は全窒素含有量1%（乾物当たり2%以下）の堆肥をいう。



## 2 栽培基準達成のポイントと考え方

### 1 病害虫防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

栽培基準となる化学合成農薬使用成分回数で防除を行うためには、病害虫の特徴を理解し、発消長をよく観察して、適期に防除することにより、殺虫剤の使用回数を減らすことが重要です。秋どり栽培では、生育初期はキスジノミハムシ等の害虫の活動期に当たります。

表2 みずな・秋どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10aあたり使用量 (希釈倍数等)	対象病害虫	備考
	土壌消毒	バスアミド微粒剤 (又はガスタード微粒剤)	30kg	立枯病(ピシウム菌)、 根こぶ病、一年生雑草	発生に応じて使用
10月上旬	は種時	スタークル粒剤 (又は、アルバリン粒剤)	6kg	キスジノミハムシ、 アブラムシ類	
10月中旬	生育期	※スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	コナガ	
11月上旬	生育期	※粘着くん液剤	100倍	アブラムシ類、 コナジラミ類、 ハダニ類	

※印は「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬

#### ●土壌消毒をして圃場準備

立枯病などの土壌病害予防のため、連作する場合には、定期的に土壌消毒を行います。

#### ●キスジノミハムシ対策

キスジノミハムシは幼虫が土中に潜んでいるため、栽培中の薬剤散布だけでは防除が難しい害虫です。雑草や前作物は、これらの害虫を呼び込む原因となるため、早めに圃場を片づけ、準備しておくことが望まれます。また、播種時にスタークル粒剤等を土壌施用することが有効です。栽培中のキスジノミハムシ成虫の飛来防止には、ハウス開口部への防虫ネット(0.8mm目合い)の展張が有効です。



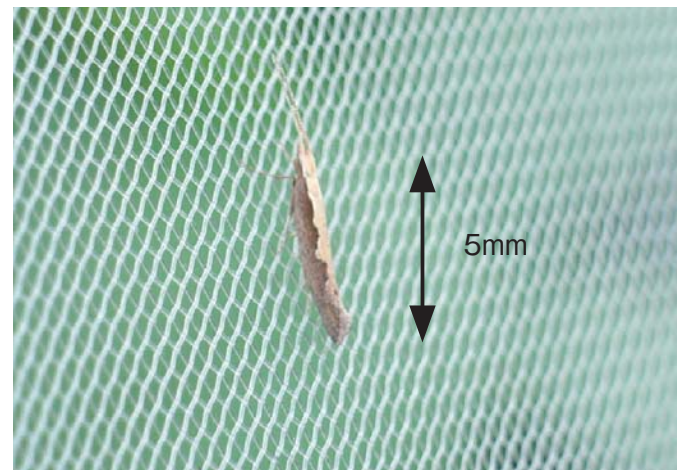
▲収穫間近のみずな

#### ●コナガ対策

幼虫による葉の食害が問題となるため、防虫ネットのハウス開口部への展張により、成虫の飛来を防ぐことが必須です。防虫ネットは0.8mm目合いで高い防除効果が期待できます。しかし、ネットの網目に産卵された卵から孵化した幼虫が、防虫ネットをすり抜けて侵入した場合には、被害発生初期にスピノエース顆粒水和剤等を散布し、防除を行う必要があります。スピノエース顆粒水和剤の使用は、収穫前14日までなので、使用時期に注意が必要です。また、コナガに対しては、野菜類に登録のあるBT剤(「ちばエコ農産物」栽培基準において化学合成農薬に含めない農薬)の使用も有効です。



▲ハウスサイド開口部の防虫ネットの展張



▲防虫ネット上のコナガ成虫



▲コナガ幼虫